# Indanyl-carbenicillin の泌尿器科領域における応用

名出 頼男・鈴木 恵三・麻生 五月 名古屋保健衛生大学医学部泌尿器科 長久保一朗•青木 清一 立川共済病院泌尿器科 稲富 丈人•井沢 明 横浜警友病院泌尿器科

Carbenicillin は既に広く用いられているが、非経口使 用薬剤であるため, 急性期または急性喚発期にある疾患 に対しては用い易くとも長期間慢性感染症患者を対象と して投与するには不向きの薬剤であった。泌尿器科領域 における慢性尿路感染症の多くは、医原性要因を多く含 む, いわゆる, 合併症のある (複雑性) 尿路感染症であ る。これらに薬剤を投与して菌を駆逐することは時とし て困難であり、時として無意味に見ることも少なくな い。しかし、時には、軽度の尿路通過障害のため遷延治 療となり、感染あるための種々の症状を示す場合もまた 少なからず, 再感染の起き難い状態では, 経口薬剤を用 いてやや長期に亘る感染管理を行う意味のある場合も少 なくない。

この carbenicillin の indanyl-ester 製剤はほぼこの目 的にそって開発されたものと考えられるが、これが実際 に臨床の場で、どれほど有用であるか、非経口投与との 感染症治療上の適応の差、等につき検討対象として好個 のものと考えられる。

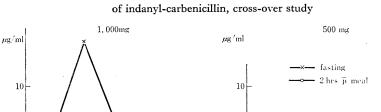
# [I] 試験管内抗菌力試験

Indanyl-carbenicillin は、消化管から吸収後、水解さ れ indanol と free-carbenicillin になることが判ってい る。したがってこの薬剤の抗菌力は注射製剤の抗菌力と 変らないこととなる。故に今回の試験では専ら投与対象 となった患者における試験管内抗菌力だけについて検討 を加えた。なお緑膿菌以外のものは discによる感受性だ けに止め、緑膿菌については MIC を測定した。

MIC 測定に用いた培地は Nutrient agar (Difco) で, 1平板当り10株を白金線を用いて streak し, colony が 或る程度分離して認められ、 MIC と同時に平均耐性も 測定し得るわれわれの定法で行なっている。結果は総て 臨床試験例の部分に記載した。

### [Ⅱ] 吸収・排泄試験

指示菌としては Bac. subtilis ATCC 6633 を用い、培 地は Difco 栄養寒天を用いた。



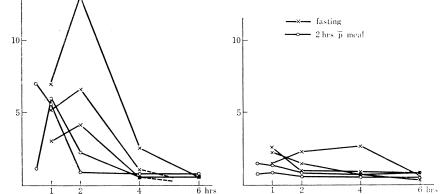


Fig. 1 Serum concentrations of carbenicillin after oral intake

Volunteer 5名中, 3名は専ら早朝空腹時投与, 2名は食間投与とした。投与量は1回500 mg と 1,000 mgの2種とし cross over で行なった。 Pseudomonas aerug. NCTC 10490 と heart infusion agar difco の組合せと両方 preliminary に行ってみたが,尿中濃度では殆んど差なく,血中濃度では約半分の濃度に出たので,Bacillusを用いた。なお標準液は buffer 稀釈系列を用いた。

その結果、Fig. 1 のと おり、血中濃度のピークは 1,000 mg 投与では、空腹時より食間のほうが早目に出る傾向を示し、その値も 1 例を除いてさしたる差は出なかった。  $500 \, \mathrm{mg} \, 2$  投与では両群とも極めて値が低く、特別の傾向は見出せなかった。

尿中回収は Table 1 のとおりで,経口投与の故もあるが個人差大きく,いずれの場合もほぼ30%が6時間までに回収されるという結果であった。

Table 1 Urinary recovery of carbenicillin after oral intake of indanyl carbenicillin, cross-over study

	Condition	Dose	2 hr	4 hr	6 hr
# 1	Fasting	500mg 1,000mg			30.2%*
# 2	Fasting	500mg	7.1	14.9	22.8
# 3	Fasting	1,000mg 500mg	24.1		
# 4	Post meal	1,000mg	25. 1 15. 2		36. 6 45. 5
# *		1,000mg			
# 5	Post meal (2hrs)	500mg 1,000mg	3. 4 11. 6		

Indicator: Bac. subtilis ATCC 6633 Medium: Nutrient agar (Difco)

# 〔Ⅲ〕 臨床成績

臨床使用成績は非緑膿菌感染の第1 群(急性症群10例,慢性症5例)と、緑膿菌感染の第2群に分けて述べる。効果判定は急性症は、著効(Excellent): 3日以内

の菌の消失,尿中白血球著減,解熱,有効(Good):3 日目の反応やや不満足でも,7日目に菌消失,白血球著減を見たもの,無効(Failure):菌消失せぬもの(白血球は参考所見)の3段階に分類し,慢性症は投与期間不定故,有効(Good):期間中比較的早期の菌消失,白血球減少,やや有効(Improved):菌数減少(白血球は参考所見),無効(Failure):菌数の有意の減少を見ないもの(白血球は参考所見),に分類した。

Table 2 に非緑膿菌感染症における成績を Table 3 に 緑膿菌感染症の成績を掲げた。 総括は Table 4 に示し た。

急性膀胱炎 7 例,起因大腸菌中 5 株は感性 であっ[たが,その1例でほぼ無効(菌数 104/ml は培地上での減少を考えたほうがよい)であった。一方,耐性菌例 2 例中 1 例は有効と考えてよい成績であった。急性腎盂腎炎では 3 日後やや白血球残存がみられたが除菌効果および臨床症状からは有効と考えられた。急性副睾丸炎兼前立腺炎例では起因菌は得られなかったが臨床的には無効,淋疾では有効ではあったが効果 はかなり遅延した。以上,4 例急性症10例中無効 3 例,有効 7 例(3 例は著効と習慣的に呼ばれるものに相当)であった。慢性症 5 例中膀胱炎は無効であったが 3 例が耐性菌感染,1 例は使用中耐性菌(同菌種)の選択増殖を見たものであった。膀胱尿管逆流を基盤とする慢性腎盂腎炎では細菌学的にも有効(著効)であった。

第2群は23例の緑膿菌感染である。この群の症例は総て種々の基礎疾患を有している。そのあるものは除去不能のものであったり術後徐々に改善されつつあるものだったりして、感染準備状態としての程度は一定しない。投与量は1例を除いて1日4gであるが、投与期間は反応の程度或いは原疾患の経過により長短様々で、最低7日から最長91日に亘っている。

効果判定基準は、主として細菌学的反応 を 観察 し、104/ml 未満に菌数の減少を見たものを細菌学的有効 (菌数変化巾の大きさもこの上考慮はする。薬剤投与開始前の菌数の少いもの、投与期間中の生菌減少率が低く長期投与の止むなきに至ったもの等も同様考慮対象となる)とし、尿中白血球減少率を加えて総合臨床効果を見ることとした。全症例の内容一覧は Table 3 に示した。Good (有効) は投与前 105/ml 以上の菌数が 使用中に 無菌となり、白血球も著明に減少していたものである。 Improved (やや有効)としたのは、菌数の減少率の低いものや、尿中白血球減少に不満のあるものである。 Superinfection は無効に、再発は有効例に編入した。

腎盂腎炎は14例あり、Table 4 に示したとおり、有効4例、やや有効3例であった。長期観察の結果、両群より

<sup>\* %</sup> recoveries were shown in cumulative values.

# **CHEMOTHERAPY**

Table 2 Effect of indanyl-carbenicillin on non-Pseudomonas urinary tract infections
---

Acute cystitis		•		,				
# Age Sex	Dose	D(	Prev. med.	3days med.	7 days med.			
	g × day	Bacteriol.(sensitiv.)	#Bact. WBC	#Bact. WBC	#Bact. WBC	Effect		
1) 21 F	2× 7	E. coli resist.	>100,000 30-50	N. D. N. D.	sterile 1~2	Good		
2) 24 F	2× 7	" sensit.	>100,000 ++	N. D. N. D.	sterile 1~2	Good		
3) 25 F	2×10	" sensit.	>100,000 ++	N. D. N. D.	10.000	Failr.		
4) 36 F	2× 3	" sensit.	>100,000 ++	sterile 0~1	N. D N. D.	Good		
5) 31 F	2× 7	" sensit.	>100,000 ++	sterile 0~1	sterile 0~1	Excellt.		
6) 22 F	2 imes 3	" resist.	>100,000 +	100.000 0~1	Discontin.	Failr.		
7) 38 F	2× 7	" sensit.	>100,000 +++	sterile +	sterile 0~1	Good		
Acute pyelonep	hritis							
8) 19 F	2×14	E. coli sensit.	>100,000 +++	sterile 20~30	sterile 4~5	Excellt.		
Acute epididymitis & prostatitis								
9) 68 M	2× 7	sterile	20~30	no clinical ef	fect	Failr.		
Gonorrhea								
10) 21 M	2×11	Neisseria (stain)	+++ +++	neg. stain 25~3	0 neg. stain 3~ 5	Good		
Chronic cystitis with predisposing factor at the end of med								
11) 63 M	pyelonephr	itis chr.	•					
	2×14	<i>Klebsiella</i> resist.	>100,000 ++		>100.000 ++	Failr.		
12) 70 M N	eurogenic b	oladder dysfunction						
	2×21	Klebsiella resist. Prot.mir. sensit.	>100,000 +++	Kleb.	>100.000	Failr.		
13) 64 M Bladder stone								
	2×14	E. coli sensit. Klebsiella resist. }	>100,000 +++	-	>100.000 ::::	Failr.		
14) 71 M S	uprapubic 1	prostatectomy			<u> </u>			
1	2×14	E. coli sensit.	>100,000 +++	E. coli(res.)	>100,000	Failr.		
Chronic pyelon	ephritis wi	th predisposing factor						
15) 34 F	Vesicouret	teral reflux						
	2×14	Prot. mir. sensit.	>100,000 10~20	sterile 5-	-10 sterile 3~5	Good		
		,						

Table 3 Effect of indanyl-carbenicillin against Pseudomonas infections

5	Δ.	, o	Dispersion	Dandi cast	4	Prev. medication	ion	Dose	Termn. m	Termn. medication	716	Sido Defende
			Diagnosis	r regispos. Tactor	Bacteriol.	$\mathrm{MIC}(\mu\mathrm{g/ml})$	I) U-WBC	g×days	Bacteriol.	U-WBC	Filect	Side Eirect
1	42	N	Chr.pyeloneph- ritis	Bilat, pyelolithotomy	$>10^5/ml$	> 100	1	4×91	1,300/ml	‡	Improved(Relapse)	None
2	31		=	Bilat. vesicoureteral reflux	$>10^5/m$	50	10~20/hpf	4× 7	sterile	$0 \sim 1/\mathrm{hpf}$	Good	n.
က	53	Z.	11	Hydronephrosis, bilateral pyeloplasty, unilateral	12,500/ml	25	15∼40/hpf	4×12	sterile	3∼ 5/hpf	Improved(Relapse)	11
7	72	<u> </u>	ı.	Neurogenic bladder dysfunct.	$>10^5/ml$	>100	‡	4×27	sterile	$1\sim2/\mathrm{hpf}$	Good	11
ß	42	ш	i.	Polycystic kidney	$5\times10^4/\text{ml}$	100	+	4×21	sterile	3~ 5/hpf	Good	11
9	34	Z	E	Bilateral renal stones	$> 10^5/\text{ml}$	>100	‡`	4×49	sterile	‡	Improved(Relapse)	Loss of apetite
7	69	'n	ii ii	Neurogenic bladder	$>10^5/ml$	25	‡	4×21	sterile	3~ 9/hpf	Good(Relapse)	None
∞	51	N	=	Rt. gross renal bleeding retrograde pyelography	$>10^5/ml$	>100	$10\sim 20/\mathrm{hpf}$	4×28	>10 <sup>5</sup> /ml	10~20/hpf	Failure	II
6	32	Z		Rt. pyelolithotomy	$>10^{5}/ml$	>100	‡	4×14	$Klebsiella > 10^5/{ m ml}$	‡	Failure(Super- infection)	11
10	7.5	гī	11	Neurogenic bladder dys- funct.	$>10^5/\text{ml}$	>100	‡	4×49	12,500/ml	+	Failure	#
Ξ.	41	F	"	Rt. uretero-ileo- cystostomy	$>10^5/\mathrm{ml}$	25	‡	4×42	$>10^5/\mathrm{ml}$	‡	Failure	11
12	59	ы	11	Rt. renal dysfunction	$>10^5/ml$	>100	‡	4×14	$>10^5/\mathrm{ml}$	+	Failure	11
13	51	<u>:</u>	н	Vesicoureteral reflux	$>10^5/\mathrm{ml}$	20	1	4×14	$>$ 10 $^5/{ m ml}$	20~30/hpf	Failure	"
14	64	<u>`</u>	"	Rt. nephrolithotomy	$>10^5/ml$	22	‡	$4 \times 14$	$>$ 10 $^5$ /ml	+	Failure	11
15	65	Z	Chr.prostato- cystitis	Indwelling catheter	46,000/ml	>100	25~35/hpf	4×21	sterile	10~15/hpf	Good	ш
16	69	Z	"	Retropubic prostatectomy	12,500/ml	>100	‡	4×42	sterile	15~40/hpf	Good	Elevation of GOT, GPT
17	43	N	11	Transurethrat resection, prostate	$>10^5/\text{ml}$	N.D.	‡	$2 \times 14$	$10^3/\mathrm{ml}$	$10\sim 20/\mathrm{hpf}$	Improved	None
18	65	N	11	Suprapubic prostatectomy	$>10^5/ml$	25	20~30/hpf	$4 \times 21$	$Morganella > 10^3/ m ml$	‡	Failure(Super- infection	11
19	81	N	II	Transurethral resection, prostate	$>10^5/\mathrm{ml}$	25	‡	4×14	$> 10^5/\mathrm{ml}$		Failure	Epigastral· gia
20	29	N	Н	II.	$>10^5/\mathrm{ml}$	>100	‡	4×28	$rac{Cloaca}{>10^5/ m ml}$	- <u>1</u> -	Failure(Super-infection)	None
21	73	N	"	Suprapubic prostateetomy >10 <sup>5</sup> /ml	$> 10^5/ml$	>100	‡	4×21	$>10^5/\mathrm{ml}$	+	Failure	11
22	84	Z	11	Transurethral resection,	$>10^5/ml$	>100	‡	4×42	$>$ $10^5/\mathrm{ml}$	Magaza 	Failure	"
23	37	Ŀı	Chr.cystitis	Vesicovaginal fistule	>10 <sup>5</sup> /ml	25	#	4×14	1,100/ml	5~ 6/hpf	Improved	11

Table 4	Summary of clinical effect of indanyl-carbenicillin against genitourinary infections
Acı	ite simple cases

	Total	Excellent	Good	Failure
Cystitis	7	1	4	2
Pyelonephritis	1	1	0	0
Gonorrhea	1	. 0	1	0
Epididymitis	1	0	0	1
Total	10	2	5	3

#### Chronic cases with predisponsing factors

#### 1) Non-Pseudomonas infections

	Total	Good	Improved	Failure
Cystitis/Prostatitis	4	0	0	4
Pyelonephritis	1	1	0	0
Total	5	1	0	4

# 2) Pseudomonas infections

	Total	Good	Improved	Failure
Prostato-cystitis	8	2	1	5
Chr. cystitis	1	0	1	0
Pyelonephritis	14	4(1)*	3(3)	7
Total	23	6(1)	5(3)	12

<sup>\*</sup> Number in parethesis shows relapse.

併せて4例に再発をみている。前立腺膀胱炎8例中有効は2例,やや有効1例であるが,再発を見た症例はない。1例の女子慢性膀胱炎ではやや有効の成績をみている。

腎盂腎炎群では、有効群は腎に対し直接手術操作を加えていないもの多く、一方、無効例には、切石術等腎または腎盂に手を加えたものが少くない。特に症例1は切石術後にも術前より感染が除去できぬもので、残存結石も尿流障害も共にみられていないにも拘らず91日の長期投与後再発をみている。このような症例は他剤を用いた場合にも屢々みられる所で、長期結石介在による周囲腎組織の瘢痕化と部分的機能低下が薬剤の病巣到達率低下を

斉らすことが、自然治癒過程の遷延化と共にその原因と 考えられている。症例12の機能不全腎感染例でも同様と 考えられよう。

一方,前立腺膀胱炎では有効率が低い。これは手術法によって原因が異る。開放創による手術の場合,前立腺部尿道に壊死組織が残存したり,周囲組織との間に死腔が出来,局所的に感染準備状態が形成され易いと考えられる。一方,経尿道的手術の場合は20例に1例位しか術後感染はみられないが,その例では術前より難治感染の形で存在したり,或いは systemic に感染抵抗性が減弱していたりするようである(経尿道手術では,カテーテルの術後留置期間が短かく滅多には感染を起さないのが1

つの merit とされている)。しかし有効例中再発例がなく、これは術後の尿流改善が自然に感染準備状態を除いてくれるためと考えてよかろう。

起炎菌の MIC と治療効果との対応 を み る と, 有効 群,無効群共に判然とした傾向はなく, 結果菌側の因子 より宿主側因子のほうがより感染症経過を左右すると考 えるべき結果であった。

この薬剤の利点は、経口薬剤の中では最も抗菌 spectrum が広く、penicillin 剤の常としてまた副作用少いため、長期投与が可能な点である。外来通院で感染症治療を行なうに当っては注射薬剤では、よほどの排泄遅延のない限り、1日1回投与で慢性症を治療し得るものでなく、この種の薬剤の必要性が痛感されて来ていた。ただ吸収率はやはり投与量の40%前後位らしく、また今回用いた1日4g位が経口的に胃腸障害もなく投与し得る限界に近いと思われることから、これ以上の投与成績を期待するのは無理であろう。

またこの経口剤が注射剤に代って摂取可能な患者ですべて用い得ると思わせる程の有効率が今回得られたことは、考え様によっては、最近いささか過剰投与傾向がみられ始めたこの薬剤 (CBPC) の投与法に対する警告と考えられぬこともない。この点に関しては更に検討を重ねる必要があろう。

なお副作用として19例中1例に GPT 230, GOT 110 と上昇の見られた症例があったが、術後血清肝炎と診断 された。消化器症状をみたのは38例中2例であった。

#### (IV) 結語

Indanyl-carbenicillin の吸収排泄試験および臨床使用 治験を行なった。

吸収排泄試験は 3 人の健康人 volunteer では早朝空腹時に,2 人では食後 2 時間(食間)に各 500 mg および 1,000 mg 0 1 回投与を行ない,爾後の血中濃度および尿中回収量を経時的に測定した。500 mg 投与時の血中濃度推移は両群で大した差を示さず,最高値は 3  $\mu$ g/ml を

越えなかった。一方、1,000 mg 投与時には、空腹時の 1 例で、 $13 \mu g/ml$  の高値が見られたが、他の 4 例では  $4 \sim 7 \mu g/ml$  位の最高値が 2 時間までの間に見られ、空腹時投与のほうがやや遅れて最高に達する傾向が見られた。

尿中回収率は両群各被検者毎にそれぞれ異なった排泄傾向を示し、また 500 mg と 1,000 mg の cross-over を通じての一定の排泄傾向も示さず、この薬剤の経口投与時の吸収は、ちょっとした条件の変化に微妙に影響されるようにみえた。それぞれの回収率は 6 時間までに投与量の15ないし40%位が標準と考えられる成績であった。

臨床成績は、急性症群では膀胱炎 7 例、腎 盂 腎炎 1 例、淋疾 1 例、副睾丸炎 1 例、合計10例であり、何れも 1 日 2 g 投与であったが、3 例無効例がみられた(1 例は耐性菌感染、副睾丸炎の1 例 は起因菌不明)。非緑膿菌性慢性感染症では5 例中有効は1 例だけであった(無効4 例中3 例は Klebsiella 感染)。緑膿菌感染症は全部で23例あり、上部尿路感染症14例中有効4 例(1 例再発)、やや有効3 例(いずれも中止後再発)、無効7 例の成績で明らかな有効率は28.6%、やや有効も含めると50%であった。下部尿路感染症9 例では有効2 例、やや有効2 例(再発とみず)、有効率44.4%であった。

臨床試験の結果考えられる適応症は、(1)比較的軽い基礎疾患(膀胱尿管逆流現象,比較的軽い排尿障害)に合併した変形菌および緑膿菌感染症、(2) CBPC 感受性菌感染が,他の薬剤で一旦コントロールされた後の再発防止のための長期投与位が中心となると考えられる。

#### 文 献

- Bran, J.L.; D.M. Karl & D. Kaye: Human pharmacology and clinical evaluation of an oral carbenicillin preparation. Clin. Pharm. Ther. 12: 525, 1971
- TAYLOR, W.A. & W.J. Holloway: Clinical experience with oral carbenicillin. Del. Med. J. 43: 381, 1971

# PHARMACOLOGY AND CLINICAL EVALUATION OF INDANYL-CARBENICILLIN IN THE TREATMENT OF URINARY TRACT INFECTIONS

YORIO NAIDE, KEIZO SUZUKI and SATSUKI ASO

Department of Urology, School of Medicine,
Fujita Gakuen University, Toyoake
ICHIRO NAGAKUBO and SEIICHI AOKI

Department of Urology, Tachikawa-Kyosai Hospital, Tachikawa
TAKETO INATOMI and AKIRA IZAWA

Department of Urology, Keiyu General Hospital, Yokohama

Serum carbenicillin concentration and urinary recovery after oral administration of indanyl-carbenicillin were determined in five healthy volunteers. 500 mg and 1,000 mg of the drug were taken in three fasted and in two postmeal (2 hours) individuals in cross over fashion. Serum concentration in 500 mg dose study did not exceed  $3\mu g/ml$ , however, in 1,000 mg dose peak concentration between 4 and  $7\mu g/ml$  was observed in four of them and  $13\mu g/ml$  in one fasted. The cumulative six hour excretion of carbenicillin varied case by case irrespective of the condition at the intake, averaging 31.8% and 26.9% in 500 and 1,000 mg doses respectively.

Clinical evaluation was done in three separate groups, *i.e.* acute simple infections, non-*Pseudomonas* chronic infections and *Pseudomonas* infections. In 10 acute infections cure was obtained in 5 cystitis, one gonorrhea and one pyelonephritis. In 3 failures one was due to penicillin resistant strain, and in one epididymitis pathogen was unknown. In five chronic non-*Pseudomonas* infections only one cure was obtained, however three of them were infected by penicillin-resistant *Klebsiella* strains. In 23 *Pseudomonas* infections 14 were upper urinary tract infections and 9 were lower tract infections. In 14 complicated pyelonephritis four satisfactory responses were seen. In other 3 cases temporal and rather poorer response was observed resulting in prompt relapses. Only two satisfactory responses were obtained in the lower urinary tract infections, however in another poorer response case no relapse was seen suggesting favorable post-operative course in these cases.

Viewing the responses in these genitourinary infections this oral carbenicillin is thought to be indicated in (1) *Proteus* or *Pseudomonas* infections with or without moderate urinary flow disturbances (2) long-term control of chronic infections following temporal eradication of pathogen by parentral medication.